

No.39

地域ぐるみで子どもの安全・安心を確保する取組

- 管 内 胆振管内
- 分 類 防犯教室 安全マップ 不審者対応訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校 種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 安全マップを活用した安全指導及び校区内の巡回パトロール等による地域ぐるみの安全確保の推進
- 地域ボランティアによるウォーキングバスの取組を通じた見守り活動の充実

取組の実際

ねらい

- 安全マップを活用して危機回避能力を高めるとともに、地域と連携した子どもを見守る体制を整備し、地域ぐるみで子どもの安全・安心を確保する。

内 容

1 安全マップを活用した安全指導と地域と連携した安全確保に向けた取組

安全マップを活用した安全指導を定期的に行うとともに、PTAや地域ボランティアにも安全マップを配付し、巡回パトロールに協力してもらうなど、地域全体で危険箇所等の情報を共有し、子どもの安全・安心を確保する取組を推進している。



【安全マップ】



【巡回パトロールの様子】

<児童の声>

・マップを見ると、自分が通る道に危ないところがあったので、歩くときは気を付けようと思いました。

<教師の声>

・高学年の子が低学年の子にすすんで声を掛けて下校する姿が見られ、安全への意識が高まっていると感じています。

2 地域と連携を図ったウォーキングバスの取組

平成24年度から、登校時における児童の安全確保に向けた見守り活動の一環として、地域ボランティアの協力のもと、週2回、歩いて危険箇所を確認する「ウォーキングバス」を実施している。



【登校時の「ウォーキングバス」の様子】



<児童の声>

・危ないところでは、おじさん、おばさんが声をかけてくれたのでうれしかったです。

<地域ボランティアの声>

・普段は車ですが、実際に歩いてみると、歩行者にとって危険な場所があることを確認することができました。

成果と課題

- 地域と連携した巡回パトロールやウォーキングバス等の取組を実施したことにより、子どもの危機回避能力の育成を図るとともに、地域ぐるみの安全確保を推進することができた。
- 校区内における危険箇所の情報を日常的に収集し、定期的に安全マップの見直しを図る必要がある。